

vol.50-09 (通算 570 号)

2020年12月号

やどかり

2020年12月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 増田 一世

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円(含会費)

100年後の未来を創るプロジェクトに ファイザープログラム継続助成決定

今世界中でCOVID-19が猛威を振るい、日本でも再度感染が拡大している。いつ収束するのか先が見えない中で、多くの人がこれまでの生活を大きく変えざるを得ない状況に置かれている。そんな中、やどかりの里では、2020年1月から「ファイザープログラム 心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援」(ファイザー株式会社による助成事業)の助成を受けて活動を始めた。

プロジェクト名は「見沼の文化とSDGsを意識した共同創造のソーシャルファームづくり」。プロジェクトのキーワードは、「居場所・仕事・つながり」だ。目指すは、障害のあるなしに関わらず、大人も子どもも誰でも参加できる活動、そして最大の特徴は、人と人のつながりだけでなく、見沼の自然や文化を生かしたプロジェクトであるということだ。

地域雑誌「さいたま見沼 よみさんぽ」を発行して8年、地域を歩き、地域の宝を発見する紙面づくりを目指してきた。見沼の自然や歴史に触れ、先達の足跡を辿ることで、私たちの今の行動が未来を左右するのだという責任を感じ始めている。このプロジェクトは、まさに100年後の未来を創るための取り組みだといえよう。

よみさんぽでは、「ヤギ日誌」の連載が始まった。地元の芝川小学校PTAのみなさんが飼い始めたヤギが街を散歩し、ヤギ散歩の仲間が増えていく。そして、ヤギがごみを食べてしまわないように子どもたちが散歩道のごみ拾いを始める、そしていつかこの川でカヌーが楽しめるようにきれいにしよう、と環境問題にまでつ

ながっていく。ヤギの餌を集めるために仲間のネットワークが動き、ヤギの存在が地域の中に埋もれていた「役に立ちたい」「何かお手伝いしたい」という人たちの気持ちを動かし始めているのだ。

COVID-19の感染拡大を防ぐために、人と人の距離をとることが求められる。しかし、このプロジェクトは、人と人、人と自然のつながりを創り出すことで社会を変えていこうとしている。今までにないつながりを求める社会のあり方を模索している。

そして、2020年の取り組みと2021年度の実施計画を評価され、ファイザープログラムの継続助成決定の知らせを受けた。障害分野から地域に視野を広げていくと、分野は違っても、社会をよりよくしたいと思っている人たちがたくさんいることに気づく。自分の得手や自分の時間を誰かのために活かしたいと思っている人たちもたくさんいる。また、支援されるだけでなく、誰かの役に立ちたいと思っている人たちもたくさんいる。その思いをつなげていくことがこのプロジェクトの成功の鍵である。2021年は、ソーシャルファームの具体化に向けて、具体的な取り組みをスタートさせる。まずはキッチンカーを使って、見沼の界隈を巡回し、近隣の人たちがコーヒーを飲みながらくつろぎ、おしゃべりできて、気軽に相談できる場を作っていく予定だ。ヤギの力も貸してもらおう。

見沼の歴史や文化を築く一員として、100年後の未来のために今私たちにできることを精一杯取り組みたいと思う。